

説教の最後に、私はこの祈りと、チャレンジを持って終わりにしたいと思います。

私たちの家庭が喜びに満ち溢れるように。そして私たちの人生が喜びと感謝の日々であるように。

私たちが、自分たちを傷つけた人たちも含めて、お互いに許しあえるように。

毎日が、目的と意義のある充実した日々であるように。

私たちの心の狭さや偏見が寛容と知恵に変わるように。

私たちの復讐と報復への欲望が譲歩と和解に変わるように。

私たちが明日の朝目が覚めた時、悪い事全てが消え去っていたとしたら、それはまさにクリスマスのもたらす素晴らしい奇跡と言えるでしょう。でも、残念ながらその可能性は先ずないでしょう。

本当に良くなることを願うならば、先ずは自分たちがなすべきことを行うこと、そして心を尽くして信じることです。キリストと共に在れば、最後は必ずハッピーエンドになると、信じることです。

どうか皆さんが祝福に満ちたクリスマスを迎えられるように。そして神の愛が皆さんを平安で満たし、その平安が全ての人々に平和と和解をもたらしますように。 アーメン。



## 2014年12月24日 LCR クリスマスイブ燭火礼拝 *Christmas Eve Candlelight Bilingual Service*

### 「再び信じる時」 “Time to Believe Again”

E. Carl Zimmermann 牧師

ちょっと大袈裟かもしれませんが、テレビのホールマークのチャンネルは、7月4日の独立記念日が終わった途端に、クリスマス番組を放映し始めたかのように思えます。

クリスマスの“Grinch(スクルージーのように、クリスマスを嫌っている映画のキャラクター)”と呼ばれるかもしれませんが、感謝祭の前にサンタクロースやソリが飾られるのを見ても、どうもピンと来ません。

しかも、ホールマークチャンネルで放映される番組の殆どが 同じようなストーリーなのです。ある人物がいて、その人物は クリスマスを楽しめない、しかしその人がクリスマスを喜び楽しむ人物に巡り合う。そして思ってもいない素晴らしい出来事が起こり、映画の最後には全員が楽しくクリスマスツリーを飾り、エッグノックを飲みながら「諸人こぞりて」を歌って終わります。

もちろん、現実の世の中では、何時もこのようなハッピーエンドになるとは限りません。とは言っても、クリスマスの物語が違う終わり方をするなんて考えられますか？ もしも、クリスマスの精神が絶望的なこの世の現実に打ち勝つことができなければ、ホールマークのチャンネルはきっとクリスマスの番組を放映しなくなるでしょう。

ハッピーエンドを夢見ることは、決して悪いことではないと思います。特に、今の世の中、悪いニュースが、これでもかこれでもか、と波のように打ち寄せて来るのですから。

今夜のような「聖なる夜」でさえ、耳にするニュースは、暴力や血闘、児童虐待、貧困、人種差別による緊張感、政情不安等の暗い出来事です。そしてそれらに対するの長い祈りのリストです。

私たちが本当に必要な時に、ホールマークはどこに存在しているのでしょうか？

さて、皆さんの想像力を最大限に使って想像してみてください。もしも、たった24時間だけでいいから、イスラエル人とパラスチ人がお互いに、意見の相違を捨て、武器を捨てる事ができるとしたらどうでしょうか？

皆さんは、マーチン・ルーサー・キングが祈ったように、私たちは肌の色によってではなく、それぞれの人格の内容によって判断される日が訪れると思いますか？

皆さんは、将来私たちの言語から、ホームレスや飢餓、貧困、無知、等の言葉がなくなる日が来ると思いますか？

いつの日か、私たちが大声で主張しなくても、自分たちの気になる事柄を話し合える日が来ればいいと思いませんか？

皆さんは、人類がお互いに尊敬し合い、オープンに、正直に、公正である事が当然であり、それが自然となる時が来ることを想像できますか？

私たちの家庭はどうでしょうか？ お互いが不満をぶつけ合う争いの場ではなく、互いに大切にし合う、心温まる場所として存在しているのでしょうか？

全ての人類が、剣を鋤に変え、槍を鎌に変える日が来るのでしょうか？

もし明日、私たちが家族や友達と一緒にクリスマスツリーを囲む時、クリスマスのスピリットが、私たちの中を改善してくれた、と気が付いたとしたら、どんな気持ちになるのでしょうか？

もし、本当にホールマークのようなハッピーエンドがあるとしたらどうでしょうか？ そうであれば素晴らしいと思いませんか？

私たちは、素晴らしい奇跡が起こる事を毎年願っているのです。しかし、覚えておきたいことは、キリストが誕生し、天使が喜び賛美したのに、世の中それほど変わっていない、という事実です。ベツレヘムの馬小屋の向こうにある現実には、家族が今もお金の問題や子供をどう育てるかで争っているのです。

政府といえば、未だに市民を規則や、税金を押し付け、強制します。未だに貧困、飢餓、不正は絶えません。

私たちは、神聖な素晴らしい出来事が馬小屋で起こったことは解っています。でも悪魔は未だに醜い頭を持ち上げて来るのです。それでも、クリスマスは希望の時です。なぜなら、キリストが、一緒に全てを良くしよう、と私たちを招いているからです。

今宵、そして明日、皆さんに送られたクリスマスカードをよく見てください、そしてその中から、“MAY”(一ように)、という言葉が挨拶文にあるカードを引き抜いて見てみましょう。

妻のボニーと私は、いただいたカードに書かれているこれらの言葉に励まされます。

「あなたの人生が平和で満たされますように。」

「クリスマスの精神があなたに喜びと幸せを運んでくれますように。」

「キリストの愛があなたの中に沸き起こりますように。」

「クリスマスの季節に、神の祝福があなたとあなたの家族にありますように。」

「クリスマスの光が、あなたの行く手を照らしますように。」

この「May(一しますように)」という言葉は、カードや挨拶に一番よく使われる言葉です。そして私たちがこの言葉を使う時は、その言葉の背後に疑問が伴っているように思えます。私たちが、「May(一しますように)」と言う時、私たちはそうなるようにと願っているのですが、実際にそうなるという確信はないからなのでしょう。

もちろん、キリストご自身が私たちの将来の夢や願望に関わっていなければ、何も定かではないのです。そして神の独り子を信じる事が私たちをいつまでも導いてくれるのです。

今年のMacy'sの感謝祭パレードの番組をちらっと見ていたら、パレードの並びに立っているあるビルにかかっている垂れ幕に、一言だけ書かれている文字が目に入りました:「Believe(信じる)」。

クリスマスに、私たちがする事は正にそれなのです、信じる事なのです。私たちは、キリストに信頼するのです、そうすれば全てが変わるのです。

私たちは、過ちが正され、傷が癒されることを信じるのです。

過去に犯した過ちや恥に、私たちは囚われの身となる必要はないのだという事を、信じるのです。